

令和6年度 わかあゆ認定こども園自己評価結果

1. 教育・保育の目標

園児一人一人に応じた教育・保育を一体的に行い、心身ともに健康で明るく、たくましい子を育てる。

■目指す子どもの姿

- げんきにあそぶ子
- あいさつのできる子
- おもしやりのある子
- じぶんのことはじぶんでできる子

2. 重点的に取り組む目標・計画

- 全体的な計画、教育・保育課程に基づき、具体的な指導の重点を捉えた指導計画を作成し、計画的な取り組みを行う。
- 環境構成と教材を研究し、教育及び保育の内容の充実を図る。
- 外部研修や園内研修で学んだことを、職員間で共有し実践、評価して職員全体の質の向上を図る。
- 家庭、地域、小学校との交流と関係機関との連携を図る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
○全体的な計画、教育・保育課程に基づき、子どもの実態に合わせた具体的な指導の重点を捉えた指導計画を作成して教育及び保育の充実を図っている。	B	・様々な研修で学んだことをいかし、具体的な指導の重点を捉えた指導計画を作成、子どもの実態に合わせた教育・保育を実践することができた。また、組織的に、教育及び保育の計画のねらいを具体的に捉える意識が見られるようになった。一方で、行事の捉え方等、学びの連続性が計画と実践につながらないこともあったので、今後も、学びの連続性を意識し、教育及び保育の重点を定める視点をもちながら、計画と実践を組織的に取り組んでいくようにしていきたい。
○指導の重点を捉えた計画を開拓するために、環境構成と教材の研究を行い、環境の再構成を交えながら教育及び保育に取り組んでいる。	A	・園内研修や外部研修に参加したり、園長や教頭の助言・指導、同僚からの協力や支援を受けたりして、指導の重点を捉えた計画を作成し、環境構成と教材の工夫を行いながら活動を開拓することができた。一方で、子ども達が多様な経験を得られるように、様々な教材や活動を開拓できるようにしていくことが、今後の課題となる。
○職員の同僚性を高めながら、外部研修や園内研修で学んだことを共有し、共通理解を深め、教育及び保育の中に取り入れて実践、評価して取り組んでいる。	B	・それぞれが参加した研修内容を職員間で共有し、教育及び保育に取り入れて実践した。特に支援を必要とする園児の為に、研修や会議を設けて資質向上を図り、職員全体で支援の体制を作り、取り組むことができた。今後の課題としては、だれもが積極的に研修に参加できるような体制を作り、自分の学びたい研修を通して、質の向上を図れるようにしていくこと。また、教育観・保育観をより共通理解していくことである。
○園と小学校との円滑な接続ができるように、交流の機会をもち、子ども同士や園と小学校の職員のつながりを深めるように取り組んでいる。	A	・こ小連携合同研修会や園行事の保育参観などを通して、園の教育及び保育を理解してもらうことができた。また、小学校訪問の機会を作り、園児と児童が直接交流でき、職員間も交流を通して相互理解が深まった。今後も子ども同士の交流機会を作ったり、職員間の共通理解を図ったりして連携を深めるようにしていきたい。

○家庭、地域、関係機関に園の教育及び保育の意図を情報発信したり、交流したりして連携を深められるように取り組んでいる。	B	・「開かれた教育・保育課程」を意識し、ドキュメンテーション、ホームページ、クラスだよりなど情報発信を工夫したり、行事を通して教育及び保育の意図や営みを直接的に見てもらったりして園の教育及び保育を理解してもらえるよう取り組んできた。一方で、関係機関との役割分担がうまくいかない事案もあった。交流の機会は増えているが、園の教育及び保育についての理解を深めるために、さらに情報発信することで各関係機関と役割分担を明確にして、連携を深めるようにする。
--	---	---

※評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
教育及び保育の重点を捉えた計画のもとで、多様な経験が得られるように様々な教材や活動を展開していく。	全体的な計画、教育・保育課程に基づき、学びの連續性、子どもの実態に合わせた具体的な指導の重点を捉えた指導計画のもと、多様な経験が得られるように環境構成や教材の研究を行い、様々な遊びや活動が展開できるように図る。
職員間の教育観及び保育観を共通理解し、同僚性を高めていく。	職員間で、具体的な指導の重点を捉えた計画を共通理解のもと作成し、教育観及び保育観を認め合ったり学び合ったりする中で、教育及び保育の充実を図っていく。
家庭、地域、小学校との交流を図ったり関係機関との連携を図ったりする中で、園の教育及び保育の意図を理解してもらうように図る。	交流を通して直接的に教育及び保育の意図や営みを知つてもらったり、様々な情報発信を通して園の教育及び保育について理解してもらったりできるように、各関係者や関係機関と連携していく。
コロナ禍により教育活動や行事が制限されていた時期を乗り越えてきたが、制限がなくなったことで、今後の教育活動や行事の見直しが必要である。	全体的な計画、教育・保育課程に基づき、必要となる子どもの学びを見直し、計画の中に取り入れながら、教育活動や行事を行っていく。

令和7年3月31日

評価者

那珂川町立わかあゆ認定こども園

園長 川上清美